



平成21年4月17日

各位

会社名 株式会社 葵プロモーション
 代表者 代表取締役社長 高瀬 哲
 (コード番号9607 東証第一部)
 問合せ先 専務取締役 八重樫 悟
 TEL03(3779)8000

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年11月7日に公表した業績予想及び平成20年5月16日に公表した配当予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	18,050	780	710	250	20.55
今回修正予想(B)	16,780	290	285	△430	△35.94
増減額(B-A)	△1,270	△490	△425	△680	-
増減率	△7.0	△62.8	△59.9	-	-
(ご参考)前期(平成20年3月期)実績	17,250	839	781	277	22.80

(2) 21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	14,000	585	635	220	18.09
今回修正予想(B)	13,018	270	395	△285	△23.82
増減額(B-A)	△982	△315	△240	△505	-
増減率	△7.0	△53.8	△37.8	-	-
(ご参考)前期(平成20年3月期)実績	14,597	566	613	259	21.34

(3) 理由

米国の金融危機に端を発した世界経済の急激な落ち込みにより、わが国経済は大きな影響を受け、企業業績・個人消費とも極めて低調なものとなっております。広告需要も同様で、厳しい経営環境となりました。

- ① 売上高は、積極的な営業活動を展開したものの広告需要減少の影響が思いのほか大きく、前回発表予想を下回る見込みです。
- ② 各利益は、大きな比率を占める個別業績が、制作原価率の抑制等経費の節減に努めたものの、
 - (a) 減収による影響<約300百万円>
 - (b) 株式市場の大幅下落等に伴う委託機関の運用成績低下による退職給付費用の負担増<約7

5百万円>

(c) 映画作品に係る貸倒引当金計上<約142百万円>

(d) 投資有価証券の評価損計上<約124百万円>

(e) 役員退職慰労金の支給<約129百万円>

(f) 繰延税金資産の一部取崩しに伴う税金費用の増加<約50百万円>

等々から、会社創立時(第1～3期)を除くと初めて当期純損失を計上する見通しであることと、各子会社業績も低位となる見通しであることから、前回発表予想を大幅に下回る見込みです。なお、(a)(b)(c)は、営業利益段階に影響しております。

2. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想	7.00	18.00	25.00
今回修正予想	—	16.00	23.00
当期実績	7.00	—	—
(ご参考)前期(平成20年3月期)実績	5.00	20.00	25.00

(2) 修正の理由

当社は、経営基盤と財務体質の強化を図るとともに、株主の皆様へ積極的かつ継続的に利益還元を行うこととし、当面、①配当性向30%以上 ②1株当たり年10円以上 を基本方針として配当を実施しております。

上記のとおり、平成21年3月期の連結および個別の業績は前回予想を大幅に下回り、当期純損失を計上する見込みにあります。このような状況におきましても株主の皆様への長期的な視点に配慮しつつ安定的な配当を行うこととし、誠に遺憾ではございますが、前期実施した創立45周年記念配当2円相当を減配し、期末配当金の予想を1株当たり18円から16円(年間25円から23円)に修正させていただきたいと存じます。

3. その他

来期以降の見通しにつきましては、本日発表の「創立50周年に向けて Shape Up Plan 中期経営計画の再構築」をご参照下さい。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上